

I 実践

1 研究主題

人権尊重の精神を養い、思いやりや助け合いの心をもって行動する児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「一人一人が夢をもち、心豊かに自ら学ぶ、たくましい児童の育成」である。それを受け、人権教育では「誰に対しても公平・公正に振る舞うことができる態度を養い、思いやりや助け合いの心をもって行動できる児童を育てる」ことを目標としている。そこで、学校教育全体を通して、一人一人が人権尊重の精神を培い、相手を思いやり、互いに助け合う心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究内容

- ア 教科・道徳・特別活動など、教育活動全体を通じた人権教育の充実
- イ 地域との交流
- ウ 人権に関する啓発活動

2 実践内容

(1) 教科・道徳・特別活動等、教育活動全体を通じた人権教育の充実

ア 総合的な学習の時間における体験活動

9月に4年生が、親子学習会「いのちの教育」を実施した。講師の先生を招いて、命の誕生や人の成長についての講義を聴いた。また、赤ちゃんだっこの体験、代表児童の妊婦体験等を行った。講師の先生からは保護者向けに「思春期の子供の対応」の話もしていただいた。

イ 道徳教育の充実

年に一度道徳の授業を各学級、授業参観で公開した。題材を選択し、家庭や地域社会との連携を図った。

ウ ハッピータイム

異学年が交流する縦割り班の活動として「ハッピータイム」を行った。高学年、特に6年生がハッピータイムの企画運営の中で培う計画性、低学年を世話する思いやりの気持ちが育ち、高学年としての活躍の場となっている。4年生以下の児童は、高学年に感謝するとともに、自分たちもハッピータイムをつくっていく立場になるのだという自覚が生まれ、自主性や協力性、責任感が培われた。

エ あいさつ運動

学期に1回、学級毎、通学班毎の朝のあいさつ運動に取り組んだ。いつでもどこでも明るく元気にあいさつができるように意識を高め、習慣化を図ってきた。また、あいさつ運動を通して、学校全体の一体感も育ててきた。

オ 愛校週間

12月16日から5日間、自主的に清掃することにより、一人一人が学校をきれいにしようとする気持ちを持ち、奉仕の心を養うことをねらいとしている。

(2) 地域との交流

ア 花いっぱい運動

5月と11月に6年生と地域の方々と、学区内の花壇に花の苗を植えた。町づくり運動に参加できる喜びと地域の方々とのふれあいは、子どもたちの情操を育むうえで大切な体験となった。

イ 敬老会への参加

9月に6年生の代表児童と5年生全員が、敬老会の行事に参加し、作文の朗読やハイタッチダンスの披露をした。子どもたちの元気な姿に、地域の敬老の方々から賞賛の声をいただいた。また、子どもたちも人間尊重の精神を培い、人に対して思いやりをもって接することの大切さを考える機会が得られた。

(3) 人権に関する啓発活動

ア 「人権メッセージ」の実施

2年生全員が取り組んだ。

イ 「人権書道」コンクールへの参加

5、6年生が取り組んだ。

ウ 人権に関するコーナーを設けることで、人権について意識化することができた。(人権メッセージ掲示)

エ 12月の全校朝会で校長先生から人権についてのお話をいただいた。

12月4日～12月10日の人権週間についての呼びかけとポスター掲示を行った。

3 成果

(1) 教育活動全体を通じた人権教育

様々な体験活動を通して、児童に思いやりや助け合いの精神が育ってきていると感じている。

(2) 地域との交流

たくさんの人に見守られていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができるようになってきた。

II 今後の課題

- ・今後も適切な人間関係づくりのために、それぞれの取組を継続していく。
- ・子どもたちの人権意識を高めていくには、教職員の人権意識の向上も不可欠である。校内研修などをさらに充実させ、継続的に人権意識を養っていききたい。